

2017年度（平成29年度）

事業報告書

自 2017年4月1日

至 2018年3月31日

公益社団法人日本ボート協会

2017年度（平成29年度）事業報告

I 事業方針

2017年度においては、本会の二大方針である「国際競技力の向上」、「ボート人口増大」を引き続き着実に実現する為、定款に定める以下の各事業を実施した。

「日本の地域社会でボート競技の普及を図る」においては、普及プロジェクトにおける検討に基づき、本年度も推進策を継続して実施した。また、全国ボート場所在市町村協議会との連携により、2020年オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致及び物的・人的環境の整備を働きかけ、普及活動を実施した。

「ボート選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」においては、地元開催となる2020年東京オリンピックにおける日本ボート界悲願のメダル獲得に向けた、ギザビエNSD(National Sports Director)主導による強化方針のもと、東京オリンピックにおけるボート種目の見直しを念頭に、強化マネジメント体制ならびにコーチ体制を新構築し、強化活動の一層の充実を図った。また、中長期強化戦略プランに基づき、ジュニアからシニアまでの一貫した国際競技力の向上のための計画を継続し、オープン種目への対応も行い、ボートに適したタレントを有する選手の発掘をシステム化し、発掘した選手の育成に重点を置いた活動を実施した。また今年度より、タレント発掘活動の一環として、新たにJOCエリートアカデミー事業にも参画した。

「ボートの全日本選手権大会及びこれに準ずる競漕会を開催する」においては、今年度も12大会を開催するとともに、国内競技者の登録認定を実施した。

「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」においては、世界レベルとのギャップを認識し、且つ解消すべく、国際競漕機会の増加を図る一方で、選考過程の明確化とより厳格な派遣基準により、シニア・U23はワールドカップ戦、世界選手権、アジア選手権等へ、また、ジュニアは世界ジュニア選手権、アジアジュニア選手権に派遣した。

「ボート競技の諸規則・諸規定の制定及び競技用具の審査と検定」においては、ボートコースの認定業務を都道府県協会、コース管理自治体等と協力して、本年度は5コースについて認定業務を実施した。また、国際競技力向上対策の一環として、本会競漕規則および関連諸規則・諸規定をFISAルールにできるだけ近づける改訂を進めた。

あわせて、2020年に向けた協会財政基盤強化を重点的に行うとともに、公益法人としての環境整備並びに更なるガバナンス強化を推進した。

II 事業内容

1. 競技本部関係事業

(1) 競漕大会開催並びに競技者に関する事業

① 競漕大会開催について

- ・今年度は主催大会として、以下の大会を開催した。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月26日（金）～28日（日）	第39回全日本軽量級選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース

6月 3日 (土) ~ 4日 (日)	第10回全日本マスターズレガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
6月 9日 (金) ~11日 (日)	JOCジュニアオリンピックカップ 第15回全日本ジュニア選手権大会	熊本県菊池市 斑蛇口湖ボート場
6月24日 (金) ~25日 (日)	第67回全日本社会人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月29日 (土) ~30日 (日)	第37回全日本中学校選手権競漕大会	福井県美浜町久々子 湖ボートコース
8月 3日 (木) ~ 6日 (日)	第65回全日本高等学校選手権競漕大会	宮城県登米市アイエ ス総合ボートランド
8月31日 (木) ~9月3日 (日)	第44回全日本大学選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月 2日 (土) ~ 3日 (日)	第57回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月 6日 (土) ~ 9日 (日)	第72回国民体育大会ボート競技会	愛媛県今治市 玉川湖ボートコース
10月26日 (木) ~29日 (日)	第95回全日本選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
11月10日 (金) ~12日 (日)	第58回全日本新人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
2018年 3月23日 (金) ~25日 (日)	第29回全国高等学校選抜大会	静岡県浜松市 天竜ボート場

②全国マシンローイング大会開催

- ・今年度も全国各9ブロックのA大会及び25カ所のB大会を開催し、昨年を上回る4,444名の参加があった。
- ・今年度大会の成績優秀者について、2018アジア・インドア選手権大会に派遣する。

③競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2017年度の競技団体及び競技者の資格決定及び競技者登録を行った。今年度の競技者登録数は昨年対比101.3%の9,204名の登録となった。

(2) コース認定に関する事業

今年度は以下の認定申請のあったコースについて実施した。

・2017年度認定コース

都道府県	コース名	級	距離 (m)	認定種類
岩手	錦秋湖漕艇場	C	1,000	更新
神奈川	相模湖漕艇場	C	1,000	更新
兵庫	円山川城崎漕艇場	B	1,000	更新
愛媛	玉川湖ボートコース	B	1,000	更新
静岡	佐鳴湖	C	1,000	更新

(3) 2020東京オリンピック競技会場(海の森水上競技場)整備に関する事業

- ①東京都オリンピック・パラリンピック準備局及び2020組織委員会と連動し、2020オリンピック・パラリンピック大会並びにテストイベントである2019世界ジュニア選手権大会の開催に向け、コースと関連施設の整備について、協議と検証を実施した。
- ②2020オリンピック・パラリンピック組織委員会と連動し大会運営に係わる施設関連準備作

業を実施した。

(4) 審判に関する事業

①審判業務

・ 本会主催並びに主管大会に、審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務を実施した。

②審判員養成事業

審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を実施した。

研修会名称	参加人数	開催期間	開催場所
第87回審判員研修会 B級審判員認定試験併催	研修者66名 B級受験11名 (内合格者2名)	5月26日(金)～ 28日(日)	埼玉県・戸田ボートコース
公認審判員セミナー B級審判員認定試験併催	セミナー32名 参加 B級受験0名	6月9日(金)～ 11日(日)	熊本県・斑蛇口湖ボート場
第88回審判員研修会 B級審判員認定試験併催	研修者66名 B級受験9名 (内合格者2名)	11月10日(金) ～12日(日)	埼玉県・戸田ボートコース

(5) ルール整備に関する事業

国際競技力向上のためには、国内の競漕環境を国際仕様に近づける施策が必要であるとの認識で、以下の施策を進めた。

- ①毎年改訂されるFISAルールの最新邦訳を常に提供できるように、翻訳作業を継続した。
- ②我が国の競漕会をできるだけ国際大会に近づけるため、当協会競漕規則をできるだけFISAルールに近づけ、かつ主役であるアスリートファーストに立脚した、新しい競漕規則の作成を進めた。

2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

今年度は以下の基本方針並び基本計画により、選手強化事業を実施した。

①2017シーズン基本方針

- ア) 2017世界選手権におけるボート強豪国グループへの食い込みを狙う。
- イ) 世界で戦えるクルー基準として「Ideal Time」を適用する。
- ウ) 2020東京オリンピック種目への取り組みを強化する。

②2017シーズン基本計画

ア) 事前合宿及び事前テストの実施

- ・ 2016シーズンナショナルチーム選手を対象に2017シーズンに向けた事前合宿を行うとともに、2017ナショナルチームにチャレンジする選手を対象に6KmTTによる事前テストを行う。

イ) 第一次強化合宿

- ・ 2017ナショナルチームにチャレンジする選手を対象に、新トレーニングプログラムの習得と定着及び個人レベルのパフォーマンス向上を目的に行う。

ウ) ナショナルチーム選考

- ・新たに決定する2020東京オリンピックの種目により、ナショナルチームの規模及び想定するクルー編成を行う。

エ) ナショナルチーム強化合宿及び海外遠征

今年度は以下の国内合宿、海外遠征並びに国際大会への派遣を行った。

・国内強化合宿

合宿名	期間	実施場所	対象選手
4月強化合宿	4/12 (水) ~27 (水)	兵庫県・城崎	シニア
ジュニア代表4月合宿	4/13 (木) ~16 (土)	福井県・美浜	ジュニア
5月強化合宿	5/8 (日) ~28 (土)	埼玉県・戸田	シニア
6月強化合宿	6/5 (日) ~18 (土)	埼玉県・戸田	シニア
ジュニア代表6月合宿	6/19 (日) ~23 (木)	福井県・美浜	ジュニア
ジュニア代表8月合宿	8/18 (金) ~25 (金)	熊本県・菊池	ジュニア
アジア選手権直前合宿	8/22 (火) ~29 (火)	岩手県・花巻	シニア
11月強化合宿	11/12 (日) ~19 (日)	埼玉県・戸田	シニア
12月強化合宿	12/9 (土) ~23 (土)	埼玉県・戸田	シニア
1月強化合宿	1/15 (月) ~24 (水)	長野県・木島平	シニア
2月強化合宿 #1	2/15 (月) ~24 (水)	埼玉県・戸田他	シニア
2月強化合宿 #2	2/24 (水) ~25 (木)	東京都・新宿	シニア
3月強化合宿 #1	3/7 (水) ~21 (水)	埼玉県・戸田	シニア
3月強化合宿 #2	3/22 (木) ~26 (月)	熊本県・菊池	シニア

・海外強化合宿及び国際大会派遣

合宿名及び大会名	期間	開催地	対象選手
フランス・ドイツ遠征	4/23 (月) ~5/9 (水)	フランス・ドイツ	ジュニア
世界ジュニア選手権	7/23 (月) ~8/8 (水)	リトアニア・トラカイ	ジュニア
ワールドカップⅡ・Ⅲ 及び海外合宿	6/10 (日) ~7/11 (水)	フランス・スイス・ ポーランド	シニア
U23世界選手権 及び海外合宿	7/10 (月) ~25 (火)	フランス・ブルガリ ア	U23
アジア選手権	9/1 (金) ~8 (金)	タイ・パタヤ	シニア
アジアジュニア 選手権	10/9 (月) ~15 (日)	シンガポール	ジュニア
世界選手権 及び海外合宿	8/11 (金) ~10/3 (火)	フランス・アメリカ	シニア

(2) タレント発掘及び競技者育成に関する事業

今年度も、JSCくじ助成事業として、以下の事業を実施した。

① トライアウトの継続実施

- ・トライアウト第一次選考については、常設、マシンローイング大会連携、他NF連携、地域タレント発掘連携及びターゲットNTD型により実施した。
- ② J-STARプロジェクトへの参画
 - ・日体協主管のJ-STARプロジェクトへ、埼玉県ボート協会と連動して新たに参画した。
- ③ タレント育成選手国内育成合宿の実施
 - ・タレント育成選手A・Bにおいては、埼玉県・戸田並びに福井県・久々子湖において、毎月の延べ12回の国内育成合宿を実施した。
- ① 有望選手発掘育成の実施
 - ・今年度は計3回(12月・1月・2月)の有望選手発掘育成合宿を実施した。
- ② エリートアカデミー事業への参画
 - ・今年度より、男子1名女子1名の2名のアカデミー生並びに専任スタッフ1名により、JOCエリートアカデミー事業に参画した。
- ③ メダルポテンシャルアスリート国内育成合宿の実施
 - ・メダルポテンシャルアスリートA～Cにおいては、戸田ボートコースを中心に3回(4月・8月・9月)の国内育成合宿を実施した。
- ④ メダルポテンシャルアスリート及びエリートアカデミー生(EA)海外遠征

派遣期間	開催地及び大会等	対象選手
4/26(水)～5/9(火)	ドイツ・ドイツジュニアレガッタ	タレント・EA
6/23(金)～7/4(火)	デンマーク・ソーレ国際レガッタ	タレント・EA
8/17(木)～9/3(日)	オランダ・オランダ遠征	タレント・EA
3/12(月)～3/25(日)	オーストラリア・シドニー国際レガッタ	タレント・EA

(3) 医科学に関する事業

① 競技用具の審査と検定に関する事業

- ・本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査、及び原簿登録に係わる業務を行う。
- ・第72回国民体育大会、第65回全国高等学校選手権及び第29回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を実施した。

② メディカルサポートに関する事業

- ・戸田ボートコースにおける全日本大会に医師並びに看護師を派遣し、救急医事業務を実施した。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿及び海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し、選手のコンディショニング維持、改善及び指導を実施した。

③ ドーピングに関する事業

- ア) 日本アンチ・ドーピング機構(JADA)の委託事業として、国内4大会・50検体についてドーピング検査を行った。
- イ) JADAと連携し、競技団体及び選手を対象とした、アンチ・ドーピングに関する普及啓発のための以下の教育活動を実施した。

・アンチドーピング研修会

実施日	事業名・大会名	受講者数
6月9日（金）	日本代表シニア・U23男女選手	29人
8月30日（水）	第44回全日本大学選手権	90人
2月14日（水）	日本代表候補選手・スタッフ	44人

・アウトリーチプログラム

実施日	大会名	参加人数
5月5日（金）～6日（土）	第70回朝日レガッタ	500人
11月11日（土）～12日（日）	第58回全日本新人選手権	335人

（4）指導者育成に関する事業

・公認スポーツ指導者養成事業

（財）日本体育協会公認スポーツ指導者養成事業による公認スポーツ指導者養成講習会について、今年度は以下の日程で講習会を開催した。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ養成講習会	平成30年1/5（金）～9（火）	埼玉県・戸田市
公認指導者養成講習会	11/23（木）～26（日）	三重県津市・津ヨットハーバー
資格更新義務研修	5/5（金）	朝日レガッタ
	東地区 12/2（土）～3（日） 中地区 11/25（土）～26（日） 西地区 12/16（土）～17（日）	高体連3地区 （東地区・中地区・西地区）

（5）アスリートに関する事業

① トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映する事業

・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファースト並びにアスリートの環境改善につながる提言を行った。

② 本会主催諸事業に協力しボート競技の普及と発展に貢献する事業

・ボート競技並びにアスリートの地位向上のため、2020年オリンピックに向けた広報活動（対談形式の記事、各大会日本代表選手コメントをホームページ上に掲載等を企画、JOCアスリート委員選挙への立候補者推薦、地域ローイングクラブへの1日講師等）に参画した。

・ボート競技の普及発展の為、他の委員会と連携し、「お台場レガッタ2017（他競技オリンピックとのレース参加、ジュニアチームのコックス、ボート体験教室運営等）」等の普及に関するイベントに参加した。

③ 女性アスリートの競技環境改善のための事業

・女性アスリートの競技環境改善の為、女性アスリートの意見を集約し、競技環境改善につなげるサポートを行った。

④ トップアスリートのセカンドライフの支援のための事業

- ・JOCセカンドキャリアアドバイザー研修への参加等。

3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

①全国ボート場所在市町村協議会との連携

- ・「ボート競技普及プロジェクト」での検討に基づき、「全国ボート場所在市町村協議会」加盟の各水域をはじめ、全国主要水域のボート普及環境の整備をはじめとした活動を行い、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致について、連携して実施した。その結果、2018年3月末現在4カ国の事前キャンプが決定している。

②「お台場レガッタ2017」の開催

- ・日本スポーツ振興センター助成事業として、一般愛好者、初心者への参加を募り、参加者、観客が共に楽しみ、ボート競技の魅力を体感できることを目的に「お台場レガッタ2017」を7月2日(日)お台場海浜公園で開催し、750名の参加があった。

③関連団体の活動支援

- ・中学生、高校生及び障がい者のボート競技振興を図るため、全国中学校ボート連盟、全国高等学校体育連盟ボート専門部及びNPO法人日本パラローイング協会の活動に対し、助成金交付と支援を行った。

④オリンピックの会活動

- ・ボート競技普及を目的として、オリンピックによるボート教室を3ヶ所（長野県諏訪湖、埼玉県戸田市、愛媛県今治市）で実施した。
- ・オリンピックによる講演会を1回（静岡県浜松市）実施した。

(2) 広報に関する事業

①協会広報誌「ROWING」の発行

本年度は、当協会機関紙「ROWING」を6回発行した。

②「ボートのある風景」写真コンテストの実施

全国ボート場所在市町村協議会と連携し、「ボートのある風景」写真コンテストの実施し、100点を超える作品の応募があった。

③報道機関、マスコミへの対応・協力

- ・2020オリンピック関連取材に積極的に協力し、ボート競技の普及と理解に努めた。

(3) 安全環境に関する事業

・日本ボート協会認定セーフティアドバイザー講習事業

本会認定セーフティアドバイザー講習については、本年度は以下の日程で講習会を開催した。なお、本講習は各水域や団体における安全責任者も受講の対象とした。

開催日程	開催場所
1/28 (日)	埼玉県・戸田市
2/18 (日)	大阪府・大阪府立漕艇センター

4. 管理本部関係事業

(1) 国際関係事業

①国際審判派遣

今年度は以下の国際大会に審判員を派遣した。

(FISA主催大会)

大会名	開催期日	会場地・開催国	派遣審判員
ワールドカップⅢ	7/7(金)～9(日)	スイス・ルツェルン	佐藤裕(東京)
世界U23選手権	7/19(水)～23(日)	ブルガリア・プロブティブ	中島大祐(東京)
世界マスターズレガッタ	9/7(木)～10(日)	スロベニア・ブレッド	塚田秀樹(京都)
世界選手権	9/23(土)～10/1(日)	アメリカ・サラソタ	田畑喜彦(愛知)

(ARF主催大会)

大会名	開催期日	会場地・開催国	派遣審判員
アジア選手権	9/4(月)～8(金)	タイ・パタヤ	栗山俊久(東京)
ユースオリンピック予選 &アジアジュニア選手権	10/11(水)～14(土)	シンガポール	上田良史(兵庫)
アジアローイングカップ	12/8(水)～10(土)	インドネシア・palembang	山田真司
アジア沿岸選手権	12/14(木)～17(日)	中国・Shenzhen	隈元幸治

②国際審判員試験

今年度は10月にシンガポールで行われた、FISA国際審判員試験に日本より2名受験し、2名合格となった。

③国際交流事業

今年度は以下の交流事業を実施した。

・日韓交流事業

4月に行われた韓国・忠州湖カップに4名の選手を派遣した。

・ニュージーランドオタワ大学との交流

3名の選手について、それぞれ6～10週間派遣し、現地の競技会へも参加した。

④FISA及びARF総会への代表者派遣

・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣した。

会議名	開催日	開催地	出席者
世界ボート連盟(FISA)通常総会	10/2 (月)	アメリカ・サラソタ	木村理事長・日浦理事 田畑委員
アジアボート連盟(ARF)総会	9/7 (木)	タイ・パタヤ	千田理事 岡本オフィサー

⑤JOC国際人養成アカデミーへの受講者派遣

・昨年に引き続き、将来国際ステージで活躍できる人材育成を目的に、受講生1名を派遣し研修を終了した。

(2) 財政基盤強化に関する事業

①助成金について

- ・各関係先に働きかけを行い、日本オリンピック委員会(JOC)、日本スポーツ振興センター(JSC)、その他団体より前年を27百万円上回る年間192百万円(前年比116%)の助成を受けた。

②強化募金について

- ・今年度も継続して企業並びに個人に対し、選手強化事業等の目的でお願いし、今年度37,951千円(入金ベース)のご寄付を頂戴した。これにより、平成26年度より累計128,191千円(入金ベース)となった。

(3) 2020年に向けた事業

- ①2020年東京オリンピック・パラリンピックの前年に開催される「2019年世界ボートジュニア選手権大会」の主管が本会となった為、その準備に注力した。具体的には、本大会の準備にあたる体制として専門部会を立ち上げ、2018年2月17日(土)にそのキックオフミーティングを開催し準備をスタートさせた。

- ②2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催に必要な情報の収集と準備を、2020オリンピック・パラリンピック組織委員会、東京都オリンピック・パラリンピック準備局及びFISAと連携して進めた。

(4) NPO法人日本パラローイング協会との統合

- ・2018年(平成30年度)定時総会において、本会とNPO法人日本パラローイング協会との統合に関する議案上程を目指し、関係諸官庁並びに日本パラローイング協会との協議を行い、統合に向けた準備作業を実施した。

(5) ガバナンス強化に関する事業

①公益法人に関する業務の推進

公益法人のもとで協会運営を行うために、必要な各種規定・規則類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施した。

②コンプライアンスの徹底

昨年に引き続き、各研修会並びに講習会における啓蒙活動を継続し実施した。

以上

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年3月31日

公益社団法人 日本ボート協会